



本殿から御船の渡御の送り出しが始まる



帆を張った御船が旅をする

遠江・山と里の民俗

神社
令和四年十一月吉日

会報 第024号

国選択無形民俗文化財

呉松町の曾許乃御立神社御船行事

令和6年9月29日(日) 浜松市中央区呉松町

館山寺街道の呉松町を通ると大きな石の鳥居が目に入ります。曾許乃御立神社の第一の鳥居で本殿に通じるまでに第三の鳥居まであります。神社は奈良時代の創建と伝えられ『延喜式』に敷智郡六座の一つとして記載された式内社です。ご祭神は建甕槌命です。

神社の由来はご祭神が常陸国の鹿島神宮から奈良の春日大社へ向かう途中、根本山の船岩で休息を取った折に請願して分霊を祀ったと伝わることから、このお祭りは、例大祭の日は船に乗せて御旅所で休息を取っていただくものと考えられています。

曾許乃御立神社社名の由来は当地が鹿島神宮の社地と景色が似ていることから「そこに社を立てることを許す」と大明神の思し召しと言われています。



お旅所で祭礼をしたあと本殿にお迎えする

本殿での神事後、午後2時45分頃、拝殿前からご神体に乗せた御船の渡御(送り出し・お迎え)が始まる。

曾許乃御立神社御船行事は、鹿島祭とも呼ばれ、氏子十五力村から御造酒・御多賀弥(米糠を水で練ったもの)を奉る。曾許乃御立とは船の事をいうらしく、当日は船の形をした神輿が御旅所へ出御、神楽が奏せられる。社殿は浜名湖へ向き、湖岸の漁民の守護神として仰がれる。『浜松市史』より



神楽殿では稚児舞が奉納される

ります。本来年男4人が、船形の御神輿を担ぎますが、今は中学生が参加しています。行列は先導・鉦・大鉦を持つ猿田彦・榊・旗・弓矢・太刀・幣を持つ小学生・御船と続きます。本殿から西に100mほど離れた御神輿堂と呼ばれる御旅所まで歩いて渡御します。

御旅所に着くと舳先を本殿に向けて御船を納め、そこで祭典をして、本殿へと帰途に着きます。

境内にある神楽殿では、幼稚園児や小学生による稚児舞が奉納されます。

『曾許乃御立神社リーフレット』参考

小学生が無形民俗文化財を調べて
まとめた自由研究が2件、受賞し
ましたので紹介します。

■私がつなぐ今田花の舞

第28回図書館を使った

調べ学習コンクール優良賞(全国)

水窪小学校6年 坂本那実

今田花の舞は、佐久間町今田に
江戸時代から伝わる湯立神楽で、
毎年十一月に開催されます。

坂本さんは、福宜様の跡継ぎが
いないため存続の危機であること
を知り、今田花の舞を後世に残し
たいという思いから自由研究を書
いたそうです。

【自由研究の内容】

第一章 今田花の舞はいつから始
まったか

第二章 お宮の装飾にはどんな意
味があるか。

第三章 舞の数とお面の数はいくつ？

・実際に舞を見てみよう
・『祭典の舞』を実際に舞を習っ
て読み解く

・ひのう様みずのう様に関する疑問
・ねぎ面おに面の問答を読み解く

第四章 今田地区のみなさんに
インタビューをしよう



・花の舞の「うたぐら」とは？
・現在使われていない楽器

第五章 今田花の舞と東栄花祭を
比べる

【祭りを途切れさせない

ための提案】

★提案その一

人がくる仕組みを作る
インタビューをして、昔はおで
んやお菓子の出店があったことを
知りました。子どもや若い人が来
たいと思うイベントを企画したい
と思います。今田地区を成人して
出て行った人が結婚して子どもが
できたら、その子どもを連れて祭
りにきてくれるかもしれません。
子どもが4人そろえば、花の舞が
復活できるかもしれません。

★提案その二

女性でも参加できることを増やす
今はやっていない「うたぐら」
を私が歌います。それをきっかけ
に女性でも歌ってもらいたいです。

最後に「私ができる小さなこと
を積み上げて、この祭りを守って
いきたいです」と結んでいます。

■川名のひよんどり

〜後世にまで残したい伝統芸能〜

令和6年度 浜松市小中学校
社会科自由研究優秀作品展

博物館奨励賞 井伊谷小学校

6年 森下依楓 6年 佐藤双葉

6年 前島佑菜 6年 鈴木真那斗

6年 伊藤アンジ エラ美花

川名のひよんどりは、引佐町川
名に約600年前から伝わる正月行事
で五穀豊穡、子孫繁栄、無病息災
の祈りを込めて行われます。

★自由研究は、

①ひよんどりとは

②川名のひよんどりについて

(保存会への質問)

③川名ひよんどりと寺野ひよんど
りの比較

この3つで構成されています。
筆者の中には、一月四日の祭礼で
舞を舞っている子どもが二人もい
て、実際に舞った感想が書かれて
います。

・私は順の舞をおどることができ
て、とても嬉しかったです。そ
れは、何年も前から受け継がれ

ている「ひよんどり」だからで
す。衣装・すず・扇子・刀も以
前から使っている道具を自分が
使っていると考えると、とても
嬉しいですね。

【研究を終えての感想】

・ひよんどりをまだまだ続けてほ
しい。ひよんどり保存会の人た
ちに話を聞いて地域の熱意が伝
わった。

・順の舞を踊ったことはあるけれ
ど、川に入る意味やお面に名前
があることは知らなかった。昔
の人が行ってきたことが今の川
名のひよんどりにつながってい
ることがわかってよかった。

・私が住んでいる地域だけど知ら
ないことがたくさんあり、研究
でわかるようになった。

